多文化共生事業事例集

年度
R3

団体名	(公財)静岡県国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業費総額　８５４千円	ジャンル	A 医療・保健・福祉

事業名

「医療通訳紹介事業の定着」事業

概　要

医療通訳紹介事業の定着に向けて、医療通訳フォローアップ講座や医療従事者向けセミナーの開催、病院への医療通訳紹介を行った。

事業のポイント

◇病院からの依頼に応じ医療通訳者を紹介するための必要な人数を確保すること、医療通訳者が一定のレベルを維持すること、病院と医療通訳者との仲介にコーディネーターが入り、医療通訳を利用した医療従事者の満足度を高めること、病院が医療通訳を介した診療経験を増やし、医療通訳の必要性を静岡県全体で共有することを目的とし、事業を実施した。

事業の背景・目的

◇静岡県内の病院では、ポルトガル語・スペイン語に対応する専属通訳者を配置している病院や県電話医療通訳サービスの利用が見られる。当協会では、現在５ 言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピノ語、ベトナム語）80 名の医療通訳者が登録しており、病院からの依頼に応じ紹介をしているが、医療通訳紹介制度が十分機能しているとは言えないため、通訳支援は不十分であり、外国人患者、病院双方の不安や負担が大きい。

事業の詳細

① 研修会Ⅰ　医療通訳フォローアップ講座の開催

第１回：９月４日（土）オンライン開催（Zoom）

参加者：41 人

ポルトガル語 11 名、中国語９名、ベトナム語８名、タガログ語６名、スペイン語６名、その他１名

内容：医療通訳に必要な知識や新型コロナ感染症、外国人診療における注意点、医療通訳の倫理・心得について、専門家よりご講義いただいた。

第２回：11 月 13 日（土）対面開催

参加者：40 人

ポルトガル語 11 名、中国語８名、ベトナム語９名、タガログ語８名、スペイン語４名

内容：逐次通訳解説、通訳の技術トレーニング、用語の確認について講義を受けた後、出産等５つの場面について、医師役、患者役、そして医療通訳者を交代で演じながら、実技演習を行った。

② 研修会Ⅱ　医療従事者を対象としたセミナーの開催

日時：令和４年２月 22 日（火）オンライン開催（Zoom）

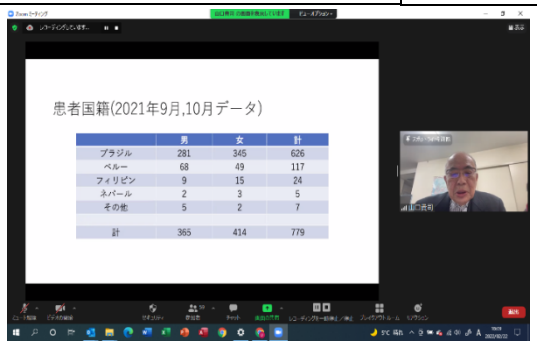
参加者：71 人（医療従事者 26 人、大学・市町国際交流協会６人、医療通訳者 39 人）

内容：外国人患者の特徴や診療時の注意点、地域医療における医療通訳の現状、医療機関における電話医療通訳システムの活用、行政における電話医療通訳サービスの紹介、医療通訳派遣事業の取組について、専門家よりお話いただいた。

③ 病院からの依頼に応じた医療通訳紹介

病院数：５病院　通訳件数：４言語８件

（中国語３件、ポルトガル語２件、タガログ語２ 件、スペイン語１件）



山口ハート国際クリニック　山口院長の講義

医療通訳フォローアップ講座　オンライン開催の様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

●事業の工夫点

事業実施にあたり、外国人診療に積極的な山口ハート国際クリニック 山口院長、浜松医科大学地域家庭医療 井上教授、形岡医師、静岡県立大学看護学部 濱井教授、浜松国際交流協会と外国人医療にかかる情報交換会を開催し、情報の共有やセミナーの内容を決定した。

研修やセミナーの受講者アンケートからは、一定の満足度も確認できた。

＜研修会Ⅰ　医療通訳フォローアップ講座＞

参加者：第１回 41 名、第２回４０名

評価	とても参考になった	参考になった
第１回	91%	9%
第２回	89%	11%

＜研修会Ⅱ　医療従事者を対象としたセミナー＞

参加者：71 名

評価	とても参考になった	参考になった	まあまあ参考になった
回答率	76.2%	16.6%	7.2%

その他、アンケートでは参加者より「ロールプレイの演習の機会やコロナ感染症に関する内容が大変参考になった。」「定期的な講座の開催をお願いしたい。」といったコメントもあり、参加者の技術だけでなくモチベーションの維持にもつながっていることが感じられた。

また、登録している医療通訳者のほとんどが同国出身者であることから、外国人患者は、より安心した環境で医療を受けられていると感じる。

●事業の成果

医療通訳講座はオンライン・現地で実施し、医療通訳者向けに延べ 81 名、医療従事者向けに 71 名が参加した。また、病院からの依頼に応じた医療通訳者を 8 件（4 言語）紹介した。

平成 24 年度に開始した医療通訳事業において、医療通訳者は研修会の参加や経験を積み、信頼できる医療通訳者として成長し、外国人医療支援に欠かせない人材として活躍している。

医療通訳フォローアップ講座言語別実技演習

今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

新型コロナ感染症の蔓延が 2 年目となり、オンラインでの医療通訳介入にも積極的な病院が増加した。対面の医療通訳を介した診療を実施した病院では、満足度が高いが、今後はオンラインでの医療通訳支援も求められている。令和 4 年度は、対面とオンラインを組み合わせ医療通訳支援の実施を予定している。

病院・医療通訳者双方が、医療通訳を介した診療経験を増やし、円滑な通訳支援につなげていきたい。

医療従事者を対象としたセミナー
森町家庭医療クリニックの取組の様子

事業担当者のふりかえり

・新型コロナ感染症の影響により、外国人患者の受診数は増加し、病院によっては、オンラインの医療通訳の活用が進むなど、医療通訳の必要性は理解が深まってはいるものの、病院が通訳に要する費用を負担することに対しては現状、理解が得られにくい。

・病院、行政、大学、医療通訳者等の関係機関との連携、情報共有に努め、病院個々の対応ではなく、静岡県全体で外国人住民医療支援事業の取り組みを進めていく。